

今回は、障害者を多数雇用している企業（長崎基準寝具(有)）の関連事業所として、就労継続支援A型事業所を開設された長崎自立支援センターきずな(長与町)の管理者の森田様にお話を伺いました。

～ 障害者雇用を考える 長崎自立支援センター きずな ～

御社で障害者を雇用するきっかけは何でしたか？

森田様「長崎基準寝具(有)は、先代からクリーニング店としてスタートしました。もともと障害者を雇用するつもりは全くなかったのですが、当時のハローワーク担当の方の熱意に根負けしたというのが正直なところですね。」

初めから障害者雇用に積極的という訳ではなかったのですね。しかし、その後も継続して雇用に取り組まれています。がどうしてですか？

森田様「最初に雇用した障害者の方々に考え方を考えさせられました。

一般の若い方も雇用していたのですが、特に景気がよかった頃は待遇のいい仕事を見つけて簡単に辞めてしまい、困っていました。

一方、障害者は本当に真面目で一生懸命働きます。

確かに仕事を覚えるまでに多少時間がかかりますが、覚えてしまえば、安心して任せられます。そんな姿を見て、これなら安心して雇用できるのではないかとの考えに至りました。最終的には、21名雇用しました。」

➤ 続きます。

そんな中、今回、就労継続支援A型事業所を開所した理由はなんですか？

森田様「当時から雇用していた人たちが中高年になり、作業能力が急激に衰え、企業として雇用することが難しくなってきたことです。民間企業である限り、労働生産性を追求せざるを得ません。しかし、能力が衰えたという理由で簡単にリストラしたら、障害者の行き場がなくなります。

思い悩んだ挙句、他県で企業と就労継続支援A型事業所併設の事例を聞き、自社でも実現したいと思ったからです。」

事業所ではどんな作業をされていますか？また工夫されていることはありますか？

森田様「企業で雇用していたときと同様の仕事をさせていただいています。

また、クリーニング作業にはいろいろな工程がありますが、どの仕事にマッチするか事前に十分検討して、できるだけ長く雇用できるよう工夫しています。また、月に1回程度家族会を開き、保護者の方と十分に情報共有を図るよう心がけています。」



作業風景。企業就労時代からの作業だけあって、慣れた手つきで作業されていて驚きました！

また、取材当日、福島県にあるリネン関連企業の(株)同仁社様が視察にお見えになり、森田様の説明に熱心に聞き入っておられました。

「長崎県CSR通信」 発行部数 2,520部

電話095-895-2454

FAX095-823-5082

発行 長崎県障害福祉課（担当：藤川）

平成24年10月26日

バックナンバーは「長崎県CSR通信」で検索